

大阪国際（伊丹）空港のあり方の見直しに係る扇  
国土交通大臣発言要旨（平成14年9月27日）

- 1．国土交通省としては、21世紀を迎え、政策の基本方針を、従来の「均衡ある国土の発展」から「個性ある地域の発展」へと、大きく転換することになっている。
- 2．その一環として、関西地域の関空、神戸、伊丹の三空港についても、国土のグランドデザインを念頭におきつつ、そのあり方を虚心坦懐に見直すべき時期にきている。
- 3．特に、騒音問題を抱える伊丹空港については、関空の二期工事や神戸空港の整備が進む中で、騒音の影響を軽減できる条件が整ってきたので、以下のような点について検討が必要と考えている。
  - 国際線が就航しないことから、現在の「第一種空港」の位置付けを変更すべきではないか
  - 発着枠の縮小など、空港運用のあり方を見直すべきではないか
  - 環境対策費の負担のあり方を見直すべきではないか
- 4．これらの課題の検討に当たっては、地元を含めた関係者の意見も十分聞きながら進める必要があることから、交通政策審議会の航空分科会で検討いただき、遅くとも年末までに結論を得て、できるだけ早期に実施に移していきたい。